

# 平井城跡(藤岡市)

築城年代:永享10年(1438年)、築城者:上杉憲実

ここが平井城跡/正面のマウンドは土塁



西側から東方向に本丸跡を見たところ/前方に説明坂が並んでいる



物凄く立派

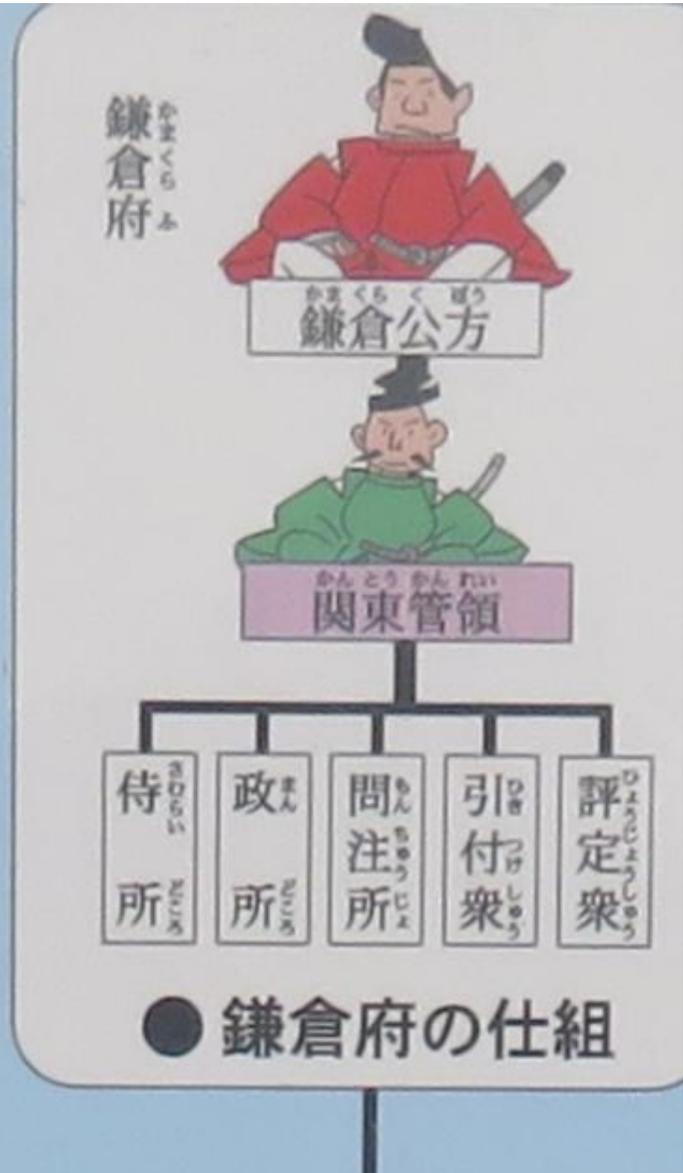
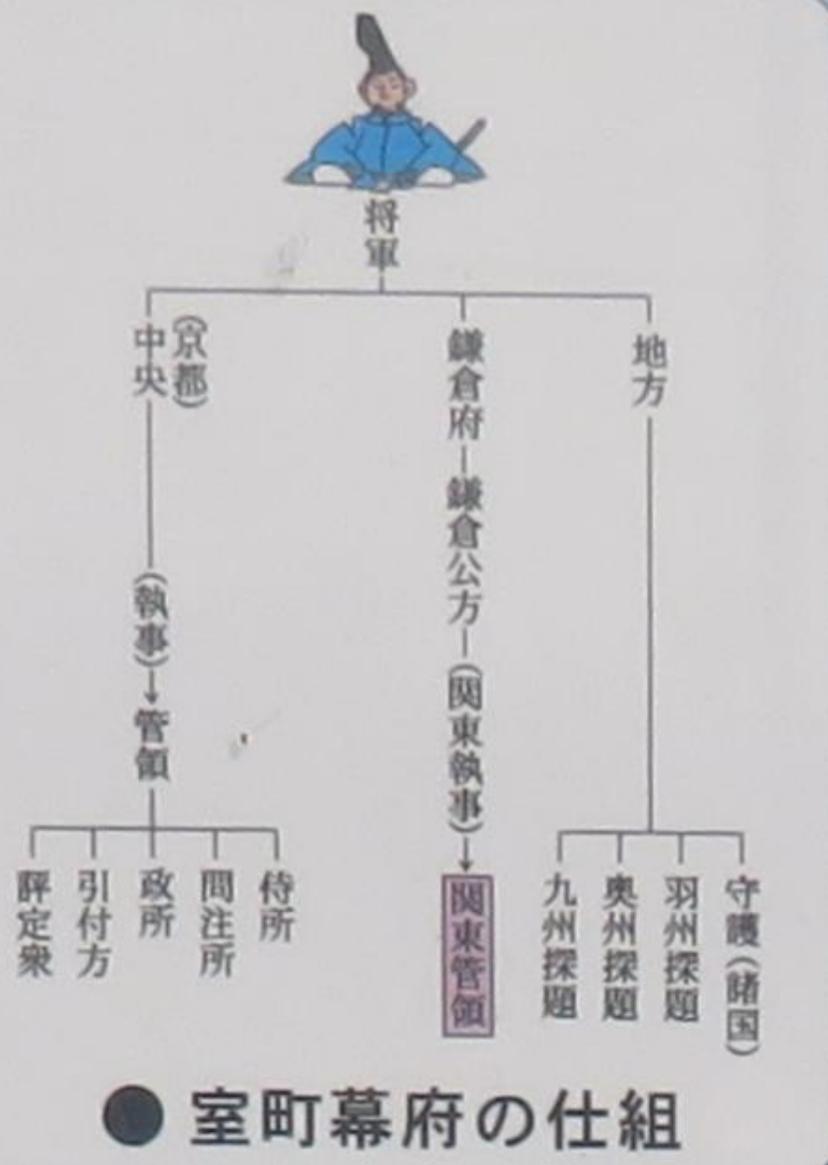




鎌倉幕府のあとをうけ、武家政治の再興をはかった足利尊氏は、政治上、軍事上の必要から京都に室町幕府を開いた。しかし、東国の武家勢力の拠点であった鎌倉を統治するところが、東国支配において最も重要であると考え、幕府の機関として設置したのが鎌倉府である。

鎌倉府の主師として、当初、尊氏の嫡子の義詮（室町幕府二代将軍）がつとめたが、貞和五年（一三四九）二男の基氏が鎌倉に入ってから鎌倉公方と称され、その子孫が世襲した。鎌倉公方は、康正元年（一四五五）足利成氏が下総国古河に移り古河公方と称されるまで、関東八か国と甲斐・伊豆の二か国を支配下に置いた。

関東管領は、鎌倉公方の補佐役で、鎌倉府の最高職であった。その任命権は室町将軍にゆだねられていた。関東管領は、上杉憲顕が任命された以後、上杉氏の四家（山内・扇谷・犬懸・宅間）がこの職を世襲した。やがて関東管領は関東の実権を握り、山内上杉氏がこれを独占していった。





平井城は永享十年（一四三八）に勃発した永享の乱に際し、時の関東管領山内上杉憲実が、総社（蒼海）の長尾忠房に命じて築城したとされる説と、応仁元年（一四六七）に上杉顕定が築城したとされる説がある。いずれにしても、天文二十一年（一五五二）の後北条氏の平井城攻めで落城するまで、関東管領山内上杉氏の居城としての役割を果たしていた。

城の構造は、「庚申堀」と称される堀をめぐらし、西平井の村落を取り込んだ「惣構」と呼ばれる構造で、城域の南端部の鮎川左岸の切り立った崖の上に、土塁及び堀により区画された通称本丸（主郭）があり、その西側に通称二の丸・笹曲輪（副郭）などが配されている。

なお平井城の背後には有事の際の要害城である金山城を「詰の城」として配置し、周辺は帰属する国人や配下の部将が築いた、御嶽城（金讚神社近く）・東日野金井城・一郷山城・東平井の砦・飛石の砦など多くの城や砦により守られていた。

## 平井城史年表

1419

上杉憲実、関東管領となる

永享（1429）の乱起こる

上杉憲実、鎌倉を出て上野国平井に退去する

この頃、平井城が築城される

1439

上杉憲実、足利学校を再興する

1448

上杉憲忠、関東管領となる



1454

上杉憲忠、鎌倉にて足利成氏に暗殺される〔享徳の乱〕

1455

上杉房顕、関東管領となる

1466

上杉房顕、足利成氏と五十子（本庄）の対陣中で没す

上杉憲実没す

上杉顕定、関東管領となる

長尾景春、上杉氏に叛き武蔵国鉢形（寄居）を出て五十子陣を攻める〔長尾景春の乱〕

1476

上杉軍、武蔵国用土原の合戦で長尾景春を敗る

1477

1487

上杉（山内）顕定と上杉（扇谷）定正、敵対する〔長享の乱〕

1504 上杉顕定、敵対する上杉朝良(扇谷)救援軍の今川氏親と北条早雲に敗れる

1505 上杉顕定、上杉朝良の武蔵国河越城を囲む

1510 上杉顕定、越後国守護代長尾為景と長森原(新潟県六日町)で戦い、敗死する

上杉顕実、関東管領となる

1512 上杉憲房(上野国守護で平井城本拠)、武蔵国鉢形城を本拠地とする上杉顕実を攻め落とし、山内上杉氏の家督を掌握する〔永正の乱〕

1515 上杉憲房、関東管領となる

上杉憲房没す

1525 上杉憲広、関東管領となる

1531 上杉憲政、関東管領となる

1546 上杉憲政、河越の夜戦で北条氏康に敗れる

1548 国峰城(甘楽)の小幡氏(後北条方)の平井城攻撃に対して、上杉方これを退ける

1550 北条氏康・小幡氏の平井城攻撃に対して、これを退ける

1552 北条氏康に武蔵国御獄城(神川町金鑽神社近く)を攻め落とされ、上杉憲政、平井を捨て越後に落ち延び、長尾景虎(後の上杉謙信)の越山を求める

1561 長尾景虎、上杉憲政を擁して厩橋城で越年、北条氏康を小田原城に包囲し、関東管領となり上杉氏を嗣ぐ

この頃、長尾景虎によって平井城が廢城になったとつたえられる

平井城跡主郭の発掘調査は、保存整備事業に伴い平成七年度から九年度にかけて行われました。調査の結果、裾部に石積みされた土塁、横堀（幅約十二メートル、深さ約三メートル）、側面に石積みされた豎堀や橋脚台跡、掘立柱建物跡、豎穴状遺構、厠跡などがみつき、十五世紀中ごろから十六世紀後半の遺物が出土しました。

「本丸」と呼称されている主郭は、ほぼ真南を頂点とする長径九十四メートル、短径七十メートルほどの五角形をしています。主郭は西側から北をへて東側にかけて土塁と横堀で区画され、北側は土塁と横堀が二重に設けられています。二重堀の間にある外土塁は通称「二の丸」という副郭とつながり、主郭を包み込む構造であったと推定されます。主郭の東側には、豎堀や土橋、曲輪などがあり、この付近の横堀の底から石積みされた橋脚台跡が発見され、主郭への出入口（＝虎口）があったと考えられます。二重堀の北側の地域は、かつて「殿小路」という小字で呼称されていました。殿小路側から「二の丸」寄りへ迂回させ、外土塁上を通過して主郭の虎口に通じていたと推定されます。また、搦手口は副郭の「二の丸」。「笹曲輪」や、その背後に詰の城である金山城が配される主郭西南部に設けられていたと推定されます。こうした構造は、十六世紀の中頃から後半に行われた大改修によって、戦闘用の城につくり変えられた時代のものと考えられます。

縄張図



そこから南西方向を見たところ/先程の土塁が見える/その背後の遠方の山が詰の城である平井金山城のようだ



土塁に登ってみる



南方向を見たところ



反対に北方向を見たところ



そこから北東方向に本丸跡を見たところ/左手の駐車場になっているエリアも本丸跡



同じく東方向を見たところ



同じく南東方向を見たところ/谷底(堀跡)となっている



アップで見たところ/説明坂が立っている





# 平井城讃歌

尽閑東治諫臣誠  
憲実安謀主与争  
荒墨空留平井里  
尊嚴千載上杉名

## 解説

平井城を築き初代城主になった上杉憲実公は  
文・武を兼備した名将で下剋上へ征服し我は全  
く無かった。鎌倉の公方足利持氏の暴政を度  
量しめられたおどろきとなりやむを得ず平井に退き持  
氏の大军を迎えて防戦した。その後代々の城主もみな閑  
東の平和安定を企図し但つて民を管領と上野守護の  
職責をこなす名士として苦心した。ここに平井城  
のいわれと上杉の名士とが伝承されてきたことと思いたい。

作詞と解説 法谷竹室(正一)  
掲示地立 平井金井 平井城址伝承会共同作業体

これはその堀跡を西側から東方向に見たところ



堀底を見たところ



さて、これは土塁上から西方向の二の丸跡のエリアを見たところ



本丸跡に下りて南東方向に進んでみる



さまざまな石造物が並んでいる



平井城余情の詩碑





乳母様分靈堂



こちらにもある





三日月城今何村  
農桑欲訪人不語  
山頭月一

最良村石所台道公早井城址



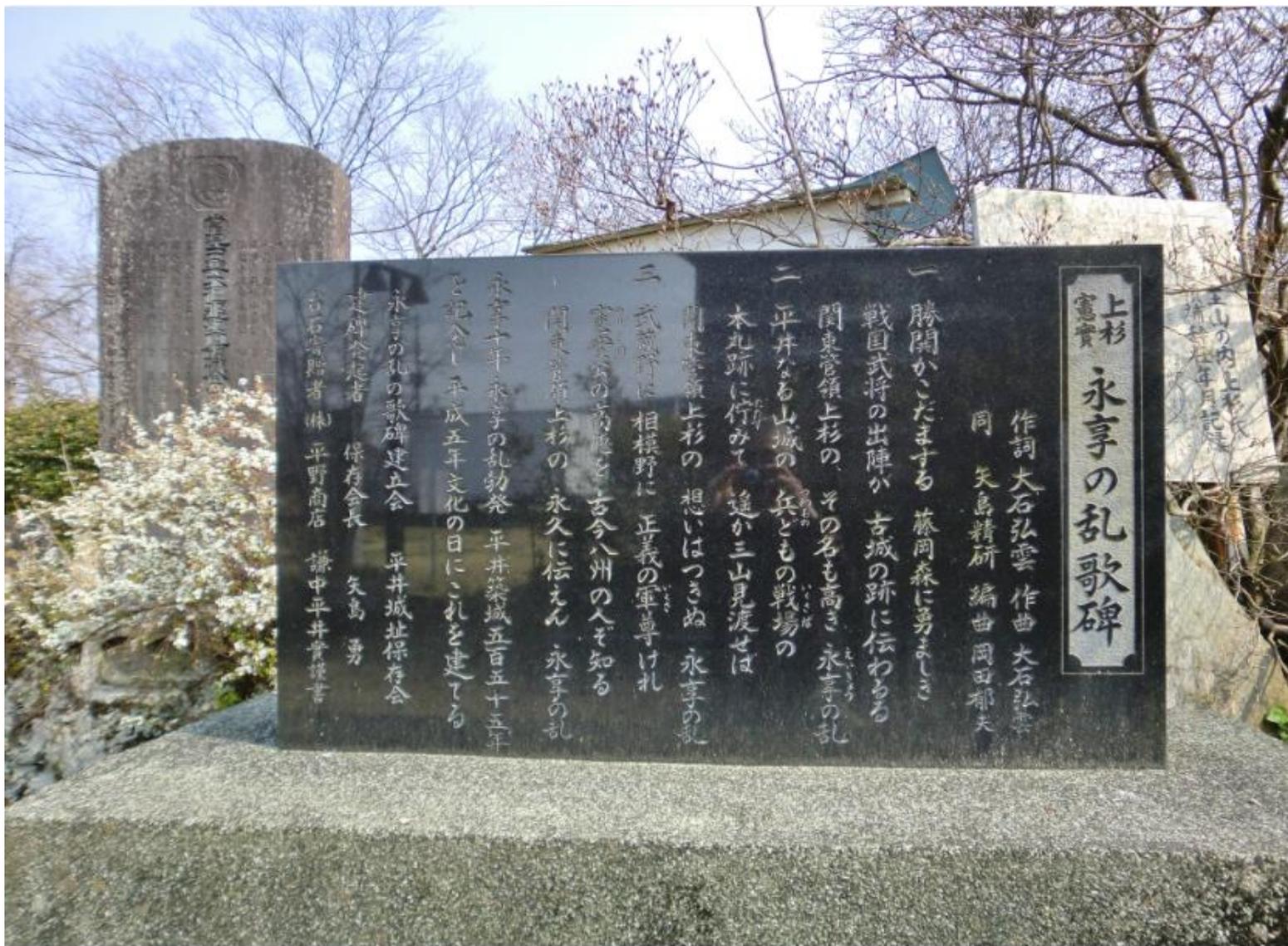
關東管領上杉氏一族之碑



上杉 永享の乱歌碑  
憲實

作詞 大石弘雲 作曲 大石弘雲  
同 矢島精研 編曲 岡田郁夫

- 一 勝開がこだまする 藤岡森に勇ましき  
戦国武将の出陣が 古城の跡に伝わる  
関東官領上杉の その名も高き 永享の乱
  - 二 平井なる山城の 兵どもの戦場の  
木丸跡に佇みて 遙か三山見渡せば  
関東官領上杉の 想いはつきぬ 永享の乱
  - 三 武蔵野に 相模野に 正義の軍尊けし  
関東官領の古風を 古今八州の人ぞ知る  
関東官領上杉の 永久に伝えん 永享の乱
- 永享十年 永享の乱勃発 平井築城五百五十五年  
と記し 平成五年文化の日にこれを建てる
- 永享の乱の歌碑建立会 平井城址保存会  
建碑発起者 保存会長 矢島 勇  
協賛者 平野商店 謙中平井貴徳書







かなり劣化していてよく読めない



いやはや説明坂等のオンパレード



# 平井金山城の展望

平井城本丸跡より、西南方約千米の所に見える山（標高三二六二米）が平井金山城跡で平井城と組合せて築城した平井城の要害山城であり、尚敵軍の來攻を早期に発見して速かに味方上杉軍を迎撃配備に就かせ督戦指揮を執るなど、平井城の天守閣の役目も果たした重要な山城でした。

昭和六十二年表門跡や櫓門跡かと貴重な遺構が発掘され、永久保存が決まりました。



昭和六十二年  
群馬県人口二百万人到達記念企画

県新 群馬の名所を巡る道と平井城址

築城



最新群馬名所百選 平井城址

関東管領上杉憲実頭定兩公史跡  
ないで下さい



名所  
旧蹟

平井城本丸跡の眺望

断崖絶壁素晴しき眺め

連なる日野の山々鮎川の清流

西寄りに迫る金山の平井詰城址に

南方に聳ゆる子王山の烽城址や

やや南東に望む天谷城址に

東方間近な鮎川湖も指呼の間に

本丸跡は我がふる里の景勝の地にて

新緑の春紅葉の秋

心ゆくまで英気を養ふ

嘗って関東管領山内上杉氏の

名城なりし平井城址の訪れ人は

想いを五百余年の昔に馳せ

中世室町時代天然の要害を

巧に用いて築かれた

難攻不落の景観を頗に称えり

一九九四西平井平井城址保存会

精研

本丸跡の断崖絶壁



二百二十年記念

# 本丸跡の断崖絶壁

正徳は、筑前門に於て身死し、其身はし  
らへて、定州侯に葬り、其地の地は十二  
段に斬移式の城と現し、此の断崖絶壁を  
石垣代りに利用し、築せし此の六百かの部  
の攻撃を待たたりには絶好の地形として凡処  
が選ばれました。



かなり劣化していてよく読めない



並井城を九郎より支城であった  
**天屋(三山)城址の眺望と越後六日町** 関東管領  
 平井城主 **上杉顕定公(管領塚)史跡**

武蔵野や竹の垣にみかかれして  
 身は浮雲の行末の空一雁を託し  
 歴史の生花に枯んと幽玄にける戦い  
 てありやゆゆの武將であつたかた  
 たさ永正七年六月二十日越後の長義原  
 (六日町)に於て顕定の加勢約八百の出勢  
 を阻つた長義原や上杉城主長義原長  
 実如の奮切り及び結城の高梨が長小  
 笠原や川邊源一との初合戦に同され  
 越後の末を寡敵せず上杉顯定(五十二)を  
 越後三山(三山)に於て重臣を以て上  
 杉氏の家系約三百名が討つた  
 顕定の加勢約三百名が討つた  
 田舎つり長義原古戦場の管領塚史跡  
 公利丸の跡で埋蔵品には既に三百年も  
 昔の元禄三年の首(二六九〇)上杉顯定公  
 の墓と判んで重臣志山宗重以下上杉方  
 交際の管人目録の立派な墓石あり二九  
 メートル三層の多層塔が建つてあり地  
 二尺に上り廻に掘られて今日に至る  
 尚昭和六十二年十一月管領塚史跡を尋  
 ねて六日町に於て掘つた地層なる  
 六日町と同東管領上杉顯定公史跡公園  
 史跡公園とした。

その断崖絶壁を覗き込む



アップで見ると下には鮎川が流れている



まだある



平井城の歌碑



平井城の歌

作詞作曲 大石弘雲  
編曲 岡田郁夫  
監修 矢島 勇

一 朝高壁に映したる名將の城上野に  
響みて大川畔眺す閑東連峰雲はるか  
威光の上杉平井城

二 古深き戦場の語り継がれた城郭は  
時の流れに苔むせど家紋の標教えたる  
関東管領平井城

三 幻ならぬ夢ならぬ戦国の世を結けは  
名だたる武將が馬駆けて攻防幾多の城の跡  
奏りて赫えん平井城

管領の城の歴史の名高きと

歌碑に託して永久に伝えん

永享十年(一四三八)平井城築城以後五百五十  
五年を記念して平成五年十一月歌碑を建てら

平井城の歌碑 建立会

藤岡市西平井平井城址保存会

平井公民館長 堀越一衛 謹言

上杉顯定公の歌碑



前方は遺跡のエリアに建つ牛舎/右手前方にも説明坂が立っている







振り返って南方向を見たところ/左手は鮎川に向かう急峻な崖



これは駐車場となっている北方向を見たところ



左手を見ると正面の植栽の間に標柱が立っている/標柱から右手に土塁があった



「土墨跡」と記されている



その右手にも正面の植栽の間に標柱が立っている/標柱の右手に堀があった



「堀跡」と記されている



ここは先程見えた牛舎の入口/立入禁止



これは西方向に道路の先に展開する二の丸跡のエリアを見たところ



こんな感じ/正面に「二の丸跡」と記された表示板がある



これは道路(堀跡らしい)で南側から北方向を見たところ/右手が本丸跡の土塁/左手が二の丸跡



これは道路を少し北方向に進んだ左手/この辺りは二の丸跡の北側の新郭のエリアか



そこで道路の反対側(東方向)を見ると三の丸跡と記された表示板があった/正面前方のエリアが三の丸跡のようだ



これは三の丸のエリアに沿って道路をもう少し北側に進んだ所で、この建物は「関東管領平井城資料展示所」



塀にも色々と資料が貼られている



中世室町時代に繁華を極めた平井なる都城の歴史。  
現世(うつつよ)に甦えらせよ貴重なる郷土の史跡を

山内五代  
憲忠  
平井二代

平井城主山の内上杉氏  
関東管領補辞任年月記録  
編纂 矢鳥

山内四代 平井初代  
のりざね  
憲実  
応永二六年(四一九)正月補任  
永享十一年(四三九)六月辞任  
越後上杉房方三男  
謙倉山内憲基嗣子

山内六代 平井三代  
ふきあき  
房顕  
享徳三年(四五三)二月補任  
文正元年(四六六)三月罷免  
上杉憲実 三男  
五十子本庄市陣没

山内七代 平井四代  
あききた  
顕定  
文正元年(四六六)六月補任  
永正七年(五〇六)六月罷免  
越後上杉房定二男  
平井上杉憲実娘婿

平井五代 鉢形城へ  
あきざね  
顕実  
永正七年(五〇六)六月補任  
永正十二年(五一五)六月罷免  
古河公方足利政氏  
の弟上杉顕定 嗣子

山内八代 平井六代  
のりふさ  
憲房  
永正十二年(五一五)六月補任  
大永五年(五二五)四月罷免  
上杉憲実三男周清  
の嫡子(憲実の孫)

平井七代 宮原潜居  
のりひろ  
憲寛  
大永五年(五二五)  
享祿三年(五三〇)  
中継 中退  
足利高基 二男  
平井上杉憲房 嗣子

山内九代 平井八代  
のりまさ  
憲政  
享祿四年(五三三)五月補任  
天文二十年(五五〇)八月中退  
平井上杉憲房 嫡子

平井廢城 既橋駐屯  
けんしん  
謙信  
禄永二年(五五九)六月補任  
天正五年(五七七)三月罷免  
越後長尾為景二男  
景虎上杉憲政 嗣子

中世室町時代に繁華を極めた平井なる都城の歴史。  
現世(うつつよ)に甦えらせよ貴重なる郷土の史跡を

関東管領平井城主山の内上杉家の紋章



しろ  
城の史を  
れきし

表紋

さがし  
たずね  
探訪する  
(竹の葉に向い雀)

群馬県藤岡市 西平井 平井城址保存会  
関東管領 平井城史探訪会  
現地探察 矢島 勇

ここが三の丸と総郭との境になるようだ/その旨の標柱も立っている



少し退いて見たところ/自動販売機の所に標柱がある/北方向を見たところ



更に道路を北方向に進み左手を見ると表示板があった



総郭跡と記されている



このエリアが総郭跡であろうか



さて、道路を少し戻って東方向に細い道に入って行くと、南方向に続く道がある



右手に説明坂がある

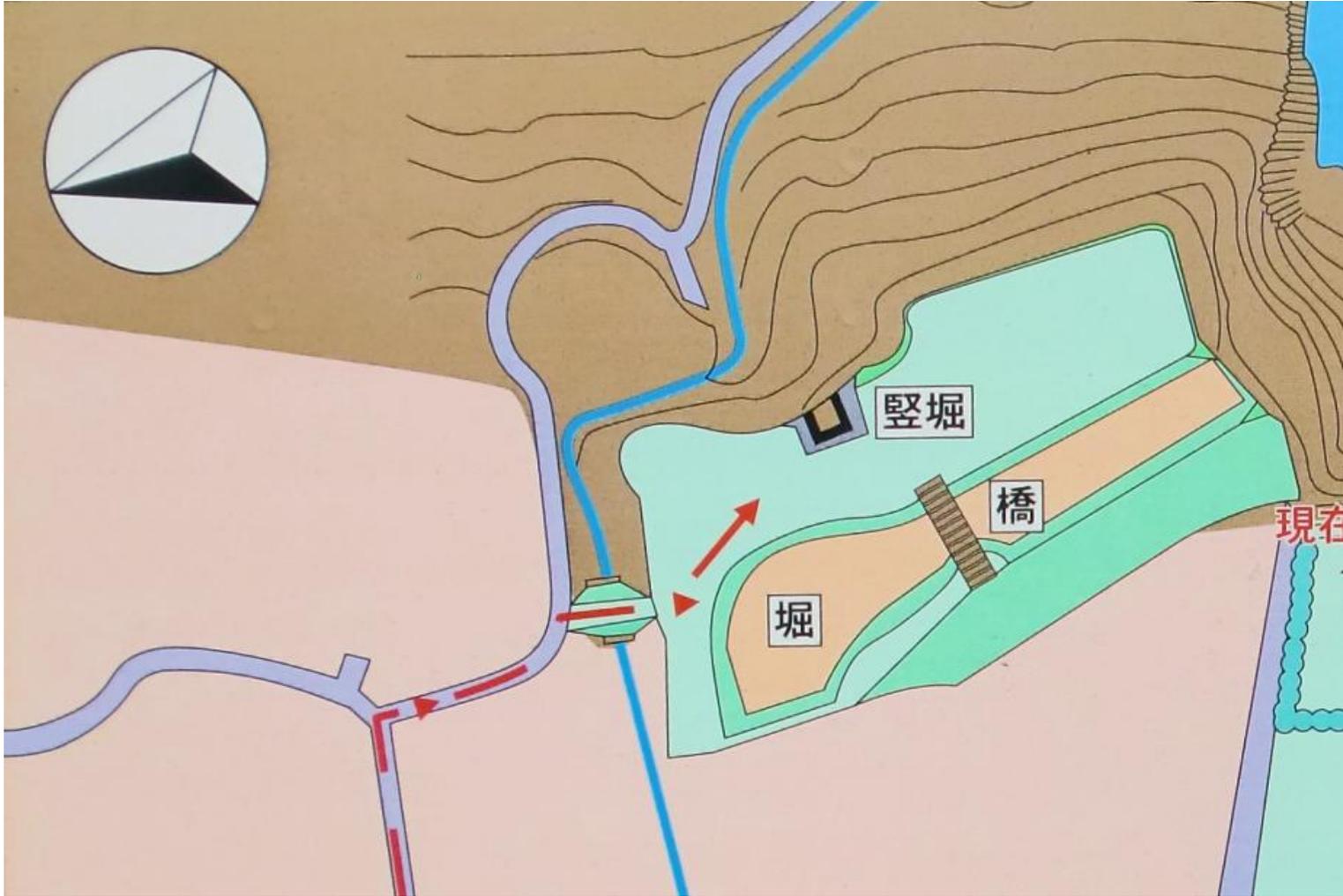


この道が「殿小路」らしい



南方向に進むと目の前に復元遺構が現れた/正面が堀跡を渡る土橋/右奥の建物が先程の牛舎で、その裏手に廻ったことになる

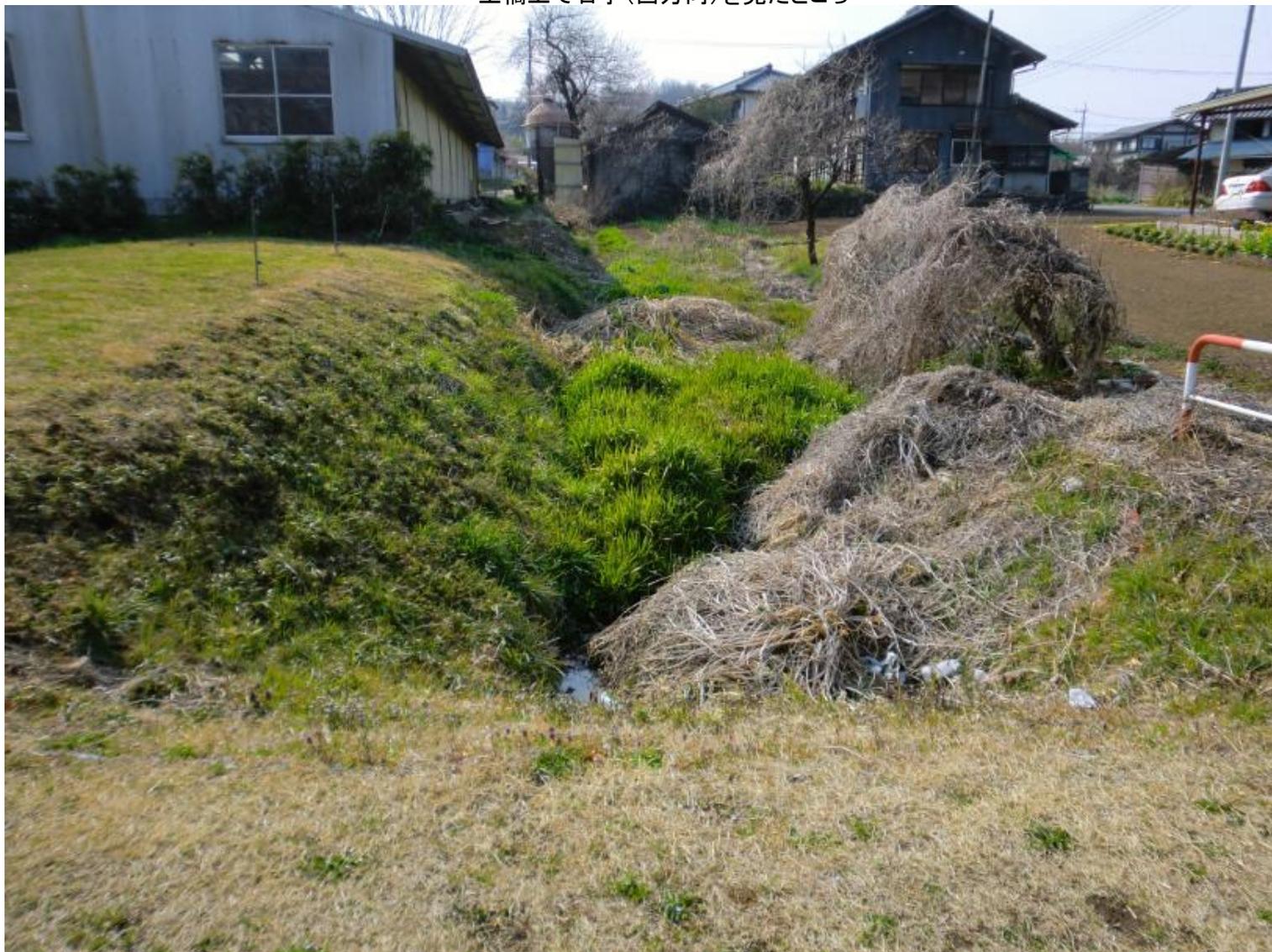




土橋を渡る



土橋上で右手(西方向)を見たところ



左手を見たところ/こちらは鮎川へと落ちて行く



堀跡を北側から南方向に見たところ/橋が架かっている



これは豎堀



こんな感じで鮎川へ落ちて行く



南側から北方向を見たところ



同じく堀跡を見たところ



東側の鮎川を見下ろしたところ



これは堀の向こうの西側の牛舎



その堀を渡る木橋



これは土橋を南側から北方向に見たところ



さて、これは総郭の西側にある荒神堀(庚申堀)を北側から南方向に見たところ





こう じん ぼり  
**荒 神 堀**  
(( 庚申堀 ) 跡)

◎ 中世 (室町～戦国) 時代  
(永享10年1438年～永禄3年1560年)  
関東管領上杉氏の居城：平井城の  
西側を防御するために作られた人工の堀  
幅約17～20m、長さ約500m、北に向  
かって鮎川に注いでいる。

《平井城史探訪会》

こんな感じ



振り返って反対側の堀跡を見たところ



ここはそのすぐ近くにある関東管領山内上杉顕定の菩提寺



常じょう光こう寺じ

室町時代中期の明応三年（一四九四）黙海和尚が創立し、山内上杉顕定の菩提寺といわれている。文禄年間（一五九二〜九六）に諸堂、文書等が焼失し、山内上杉家の位牌、記録等は現在に残されていない。その後、江戸時代初期の元和二年（一六一六）名庵和尚が再建した。

この寺を菩提寺とした山内上杉顕定は、文正元年（一四六六）に山内上杉家を継ぎ、上野国守護・関東管領となった。なお、顕定は文武両道に秀でていた。たひかさなる戦いの中、永正七年（一五二〇）長森原（現在の新潟県六日町）において、越後国守護代長尾為影（後の上杉謙信の父）と戦い、非業の死をとげている。

参考ホームページ

<http://yogokun.my.coocan.jp/gunma/hujiokasign.htm>

<http://umoretakojo.jp/Shiro/Kantou/Gunma/Hirai/>

[http://www.city.fujioka.gunma.jp/kakuka/f\\_bunkazai/horaizyouato.html](http://www.city.fujioka.gunma.jp/kakuka/f_bunkazai/horaizyouato.html)

<http://senjp.com/uesugi-norimasa/>

<http://www.hb.pei.jp/shiro/kouzuke/hirai-jyo/>

<http://www9.wind.ne.jp/fujin/rekisi/siro/hujioka/hirai/hirai.htm>

[http://qta-yuta.blogspot.jp/2014/08/blog-post\\_11.html](http://qta-yuta.blogspot.jp/2014/08/blog-post_11.html)

[http://culturalassetofgunma.web.fc2.com/huzioka/huzioka\\_hiraizyo.htm](http://culturalassetofgunma.web.fc2.com/huzioka/huzioka_hiraizyo.htm)

<http://www.geocities.jp/tsukayan0112/jyoukan-gunma/hirai-jou-fujioka-gunma/hirai-jou-fujioka-gunma.html>

<http://zyousai.sakura.ne.jp/mysite1/fuzioka/hirai.html>

<http://www13.plala.or.jp/gunmanotabi/kp-hiraijyou.html>

<http://www.page.sannet.ne.jp/d-rigel/hiraizyo.htm>

